（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス　わくわくキッズ			
○保護者評価実施期間	令和8年　6月　19日	～	令和8年　7月　17日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	27	（回答者数）	13
○従業者評価実施期間	令和8年　10月　26日	～	令和8年　11月　4日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	11	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　11月　10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のこどもにあった適切な支援の提供がなされていること	・客観的な指標を用いた一人一人のこどもの現状把握 →WISC検査、SM社会生活能力検査の実施 ニーズをとらえた支援プログラムの設定 ・学習支援も行う→すららやエジソンクラブ等の教材の採用 →宿題支援の際、必ず連絡帳を確認の上、指示通りに宿題を終えるように徹底している。連絡帳がない、宿題を忘れてしまった場合は速やかに学校・親御様へお電話にて共有し、宿題範囲の確認や忘れ物のご対応をお願いする。 ・社会性を身に付ける活動の実施→お買い物学習、公園などの戸外活動、他事業所のこどもたちと一緒に活動を行う	・SM社会生活能力検査の結果の活用 →検査項目に沿った日々の活動内容の考案・実施 →各こどもの一つ一つの検査項目の取得状況の把握と取得計画の作成・実施・評価 ・WISC検査の結果から実際に一人一人のこどもの特徴をとらえて、支援の方針を決め、実施していく体制作り
2	親御様への情報共有の徹底・迅速な対応	・定期的な個別面談の実施 ・日々の出来事に対する親御様への迅速な共有の徹底 →共有アプリを活用し、各こどもに関する事柄を職員同士でどんな些細なことでも共有し、当日のことは当日のうちに親御様へ電話もしくは口頭にて共有を行っている。中でも、こども怪我に関する内容の報告はその時点で親御様へお電話にて報告するように徹底している。 ・各担当者を集めた会議の開催	・親御様が気軽にこどものことを指導員へ共有できるためのツールの検討→HUGのマイページにある連絡ツールの活用 ・行事予定の作成・事前配布
3	何よりこどもが安心して通所できるための対応を高い意識を持って取り組んでいる指導員がいること	・常に支援を考えていく上で、なんのために、どんな目的で支援を行うのかを、常に考える仕組みがある →日々の活動の目的や効果予測を、本人支援の5領域に分けてまとめ、それを現場の指導員へ事前に共有を行ってから支援にあたっている	・指導員の学ぶ機会の充実 →年間計画に基づくスキルアップ研修の実施

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族が参加できるような家族支援プログラムや研修会などを仕組みとして行えていない。 親御様同士が関われるような機会が設定できていない。	・個別ケースでの対応については、迅速に丁寧に、そして一つの方向性をしっかりと定めるところまで対応を行っている。さらに、定めるだけではなく、その後のフォローも行っている。	・プログラムや研修会などの体制や仕組みとして、ご家族様支援を行っていくことを検討している。
2	非常時の際の事業所としての対応などについて、親御様への周知が行き届いていない。	・非常災害対策計画などの各種の書類につきましては、運営規程に定めているとともにそれを事業所の相談室に掲示をし、親御様の目の届く位置に掲示をしている。	・定期的に実施する個別面談の機会に、運営規程を用いた各種の説明を改めて、かつ定期的に実施していく。
3	事業所が所属する地域の人や場所との連携を図る機会が少ない	・年間行事の中で、地域の農家の方にご協力をいただきまして、いちごやじゃがいもの収穫体験の機会を設けている。 ・事業所で身に付けたこどもたち一人一人の力が、事業所のみならず地域の多目的センター等でも発揮できるよう定期的に利用している。 ・他事業所のこどもや大人との関わりの機会も定期的に設けている。	・年始に行われる初詣に、地域の神社仏閣に出向いて季節行事を地域の場所で行う。 ・様々な地域資源に目を向けて、地域の人との交流を地域の場所で行えるような機会を設定していく。